

第 336 回金沢眼科集談会 プログラム

日時 平成 27 年 12 月 20 日 (日) 13:00~16:30

会場 金沢ニューグランドホテル 4F 金扇の間

〒920-8688 金沢市南町 4-1 電話: 076-233-1311

連絡先: 〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660

ご案内図



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ **集談会終了後、懇親会（会費無料）を予定しております。**
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されています。
- ・ 一演題質疑応答含めて 15 分を予定しております。
- ・ デジタルプレゼンテーションに限ります。デジタルプレゼンテーション用にプロジェクターを一台用意します。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録 (400 字以内) をデータ形式にてご提出下さい。

共催: 金沢眼科集談会
参天製薬株式会社

— 次回ご案内 —

平成 28 年 4 月 3 日 (日) IT ビジネスプラザ武蔵にて行う予定です。

特別講演

(13:00～13:30)

座長 たかひらまさゆき 高比良雅之 (金沢大)

「涙道診療アップデート2015」

佐々木眼科 院長 ささきつぎひさ 佐々木次壽 先生

(13:30～14:30)

座長 すぎやまかずひさ 杉山和久 (金沢大)

「ブラッシュアップ白内障手術」

筑波大学 教授 おおしかてつろう 大鹿哲郎 先生

《 休 憩 》

一般講演

(14:45～15:15) 座長 まつむら たけひろ 松村 健大 先生 (福井大)

1. 涙腺部嚢胞の摘出手術を行った1症例

ふじいようこ
○藤井揚子、山田芳博 (富山市民病院)、斎藤勝彦 (富山市民病院病理診断科)、
高比良雅之 (金沢大)

2. 小矢部たがわ眼科における老視矯正・白内障手術 ～多焦点眼内レンズ挿入術～

たがわこうさく
○田川考作 (小矢部たがわ眼科)、浅井宏志 (あさい眼科クリニック)

(15 : 15~16 : 00) 座長 かわかみ 河上 ゆたか 裕 先生 (金沢医大)

3. 前眼部 OCT を用いた白内障同時硝子体術後結膜瘢痕の観察

ごさわ まこと
○後沢 誠¹⁾、高村佳弘¹⁾、三宅誠司¹⁾、横田 聡¹⁾²⁾、瀧原祐史¹⁾、稲谷 大¹⁾

1) 福井大 2) 京都大

4. 新しい簡易型徹照カメラによる混濁水晶体の評価

はつさかな つ こ
○初坂奈津子、長田ひろみ、佐々木麻衣、三田哲大、渋谷恵理、関 祐介、北 舞、
中野 彩、佐々木一之、佐々木洋 (金沢医大)

5. 線維柱帯切除術における濾過胞無血管化の経時的観察

さかくちきみかず
○阪口仁一、東出朋巳、杉山和久 (金沢大)

(16 : 00~16 : 30) 座長 やなぎさわ 柳沢 しゅういちろう 秀 一郎 先生 (富山大)

6. BSS、t-PA、空気の網膜下注入による、簡便な黄斑下血腫移動手術の経験

にしむら あきら
○西村 彰 (西村眼科クリニック)

7. ILM 翻転法を用いた黄斑円孔網膜剥離の術後成績

あべしんや
○阿部慎也、柳沢秀一郎、コンソルボ・上田朋子、林 篤志 (富山大)

「涙道診療アップデート 2015」

佐々木眼科 院長 佐々木次壽先生

以下の3点を中心に述べる予定です。

1) 全身麻酔下に治療を行った小児涙道疾患の統計と解析

2001年1月から2015年4月までに全身麻酔下に治療した15歳以下の涙道疾患患者72名80側（男児48側41名，女児32側31名）をレトロスペクティブに調査した。

先天鼻涙管閉塞（CNLDO）が38側と最も多く，その他涙道疾患の合併5側，先天涙点閉鎖13側，後天鼻涙管閉塞10側，涙小管断裂3側，涙嚢皮膚瘻3側，涙小管水平部閉塞1側，CNLDO合併例の内訳は涙点閉鎖2側，涙嚢皮膚瘻2側，涙小管水平部閉塞1側であった。手術を行った平均月齢は47か月であった。それらの結果より患児が年長の場合にはCNLDO以外の涙道疾患や合併例に対する準備や保護者への説明が必要となる。

2) 空気灌流下高画質涙道内視鏡の試作

胃がんや大腸がんなど管腔系臓器の腫瘍は内視鏡で早期発見され，内視鏡下治療さえも可能である。涙道悪性腫瘍の場合はどうか。その頻度は極めて低く，涙道専門施設であっても遭遇する頻度は年に数例以下である。また涙道腫瘍を疑わせる兆候は，涙管通水検査時の出血や内眼角靭帯を越える腫脹などが挙げられるが，涙管通水に慣れない眼科医にとって涙管通水時の出血は時に経験し，医原性か腫瘍由来か判断に苦慮する。画像診断も副鼻腔から浸潤した大きな腫瘍ならばCT/MRIで検知可能であろうが，初期の涙道原発腫瘍ならば，診断困難であろう。そこで今回我々は涙道内視鏡による涙道閉塞の質的診断治療や涙道腫瘍の検出を可能にすべく，空気灌流下高画質涙道内視鏡を試作したので報告する。

3) これまでに当院にご紹介いただいた涙道疾患患者で難治であった例も報告する予定です。

「ブラッシュアップ白内障手術」

筑波大学 教授 大鹿哲郎先生

白内障手術を巡る話題には様々なものがあるが，ある程度安定して一定レベルの手術アウトカムが得られるようになった現在，手術の低侵襲化と安全性の向上が改めてキーワードとなっている。そのために我々は，切開創の作成方法や感染予防法に工夫を加えている。切開創としては，経結膜・強角膜一面切開（KKIM）を取り入れ，専用メスの開発などを行いながら，良好な成績を得ている。感染予防法としては，術中のポピドンヨードの使い方，抗生剤の使い方などに工夫を凝らしている。

また昨今，複数の眼内レンズに起因する無菌性眼内炎，いわゆる late-onset TASS の多発が問題になった。感染性眼内炎との鑑別が困難な場合もあり，格別な注意喚起と正しい対処が必要である。

手術装置や周辺器具としては，新しい超音波手術装置，付加価値眼内レンズ，より洗練された挿入方法が登場し，術後成績のさらなる向上に寄与している。

講演ではこれらの話題をまとめてみたい。